



# 長倉三郎先生に神奈川科学技術アカデミーでご指導いただく

Akira FUJISHIMA 藤嶋 昭 神奈川科学技術アカデミー元理事長、日本化学会元会長

長倉三郎先生が、財団法人神奈川科学技術アカデミー（通称 KAST）の2代目理事長をされておられるときに直接ご指導いただきました。

KASTは、神奈川県が川崎市溝の口に造られた神奈川サイエンスパーク（KSP）の目玉の研究施設として平成元年7月に開設されました。初代理事長は東京工業大学名誉教授の齋藤進六先生でしたが、2代目理事長として長倉先生が平成7年4月に着任され、8年間世界に誇る研究施設として指導されました。

5年間の研究プロジェクトが中心でしたが専任の研究室長を選び、かなり自由に研究を任せるという新方式で多くの注目される研究成果を世界に向けて発信し続けたのが長倉三郎先生のご指導によりました。

私自身も光科学重点研究室を設置していただき、橋本和仁先生とともに光触媒の基礎研究を進めることができ、その延長として民間の方を含めて共同研究を効果的に実施できる光触媒オープンラボ、さらに現在も続いております光触媒ミュージアムの開設をさせていただくことができました。

KAST以前においても長倉三郎先生が主導されました日米科学技術協力事業・太陽エネルギー変換での日本側からの第1回派遣研究員に私を選んでいただいたときの感動も忘れることができません。さらに先生には分子研での岡崎コンファレンスや科研費の審査会や発表会でご指導をしていただきましたが、どの場面でも鋭いご意見と広い見識には圧倒されるばかりでした。KAST時代では新年会や成果報告会をはじめ、折々に直接お話を伺う機会があり、そのお話しの内容の深さ、広さ、そして先見性には感動しておりました。10年前にまとめられました著書『「複眼的思考」ノススメ』を読ませていただいておりますと、先生が常に勉強されてこられたことによる知識のすごさに驚きます。

この著書は長倉先生が今までお話しになっておられ



KAST 理事長室にて（平成14年）

た考え方の基がまとめられていて、先生の博学の基がわかりました。特に古今東西の多くの本の内容のご紹介は、優れた名著の案内書としても素晴らしいと思います。

2500年前のソクラテス、釈迦、孔子のご説明から始まりゲーテの偉大さや夏目漱石への思い、あるいは最近のノーベル賞受賞者のご説明など、先生のご解説で視野を広げることができました。

長倉先生がKASTをご退任されるにあたり、後任として私を指名していただいた折には本当に驚きました。その際、私がお願いしたことは以後もご指導いただくとともに、KASTでご一緒されておられた額田健吉先生、石谷炯先生にもお力添えをいただくことでした。

KASTが世界に誇れる研究機関として大きな存在感を示すことができましたことは長倉三郎先生が理事長をしておられたことによるわけで、その偉大さはどの方もお認めになることです。ご冥福をお祈りしております。

© 2021 The Chemical Society of Japan